■■■　多文化共生を考える研修会2009開催！ ■■■

昨年度までの地域国際化を考える研修会を今年度は「多文化共生」を考える研修会と名称変更し、8月19日(水）～8月28日(金）のうちの４日間開催しました。昨年度に続いて神戸大学の学生有志による風刺劇の上演もあり、延べ239名の参加を得ました。

山形県の国際結婚を中心とした問題とそれに対する取り組み、豊橋市の経済危機による状況の変化や三重での取り組み、フランスの教育課題や取り組みなど今年度も多彩な講師の方々により、大変興味深いお話をお伺いすることができました。

以下はニュース係からの報告です。

◆外国人との共働･共生とは

8月26日(水)、HAT神戸の国際健康開発センターで、50人を越える聴衆に混じって２つの講演を聴講してきました。

１講目は、「経済協力協定(EPA)によるインドネシア･フィリピンからの看護師･介護福祉士の受け入れ状況と課題～日本語研修の立場から」。講師は、(財)海外技術者研修協会AOTS日本語研修センター春原憲一郎センター長。

春原センター長は最近、しばしば厚生労働省から呼び出されるというエピソードから話を切り出された。なぜ呼び出されるのか、それは、インドネシア･フィリピンからの介護福祉士･看護師の受け入れ事業が失敗に終わるかもしれないという危機感を厚生労働省が持っているからと思われます。

失敗しそうな理由は、看護師･介護福祉士の外国人候補者に3年間の在留資格を与えるが、その期間内に看護師･介護福祉士の資格国家試験(日本語)に合格することができない場合は在留資格を打ち切るという過酷な条件がついているから。日本の国家試験を受ける彼/彼女らは、母国においては看護や介護のプロであり看護や介護の専門知識の基礎は有していますが、非漢字圏の彼/彼女らにとって大きな壁は、日本の国家試験に使用される日本語の医療･介護専門用語習得の難しさ、さらには択一問題など短時間で正解が求められる日本の国家試験独特の受験テクニック習得の難しさです。

フィリピンからの受け入れにおいては、候補者が日本の介護士養成学校で勉強して終了したら資格保有者と認定することとなりました。一方、インドネシアからの受け入れではこの制度はありません。経済産業省と外務省主管のもとでインドネシア･フィリピンとの経済協力協定(EPA)から始まったこの制度ですが、その協定が果たして守れるのでしょうか。

２講目は、「外国人研修･技能実習制度について」。講師は(財)国際研修協力機構(略称JITCO)大阪駐在事務所中谷義子所長。

外国人研修･技能実習制度とは、開発途上国の若者に日本の進んだ技術･技能や知識を修得させるため、最長3年間日本の産業界に受け入れてもらい、その後は出身国に帰ってもらう制度。産業界が直接受け入れるのは比較的少なく、受入れ機関(受入れ団体)が介在･監理して中小企業に研修生･実習生を散在させるケースが７割を占める現状。JITCOは法務･外務･厚生労働･経済産業･国土交通の5省共管の公益法人であるが、あくまでも民間団体であり強制力は持たないことが特徴。JITCOの役割は、研修生･実習生、日本の受入れ機関、そして必要ならその出身国に助言を与え、支援することに限定される。

この制度を悪用して金儲けをたくらむ事例は前述の｢団体監理型｣に多く見られ、研修生に労働を強いる、残業手当が不当に安く抑えられる、研修生･実習生の名義貸し などの事例がある。これらの悪用を防ぐため、関係省令の改正が来年7月に施行される予定。

定住外国人になれるか否かの観点から見ると、「看護師･介護福祉士の受け入れ」は一定の条件の下で

在留資格を与える制度であるのに対し、「外国人研修･技能実習制度」は長期在留資格を一切与えない制度であり、互いに正反対の興味深い講演でした。　(ニュース係　操田誠)

◆「企業の取り組み～ローソンの外国人本格採用に至った経緯から」

8月28日（金）のローソンヒューマンリソースステーションの人事企画マネージャーの井上孝氏の講演はローソンの会社説明で始まりました。従来のコンビニから、酒屋の役目、イベントのチケット、切手、旅行券の販売、ATMの設置など多角経営に進め、店舗数は少しずつ増えていったが、不況のせいで売上は中々伸びず、若年層から客の幅は広がり、ニーズも異なってきています。

そこで理念―相手への理解と尊重、チームワークの向上―を保ちつつ、世相についていく手段を考えたとき、人材の多様化、外国人の採用が頭に浮かびました。社内を国際化すれば混乱を起こすことが考えられました。でも混沌が、また、問題を提起するのではないか。そして考え、討論することで社内ムードは活発になるが、今まで通りでは無難だけれども、進歩がない。その結果、外国人の採用試験を行いました。テスト成績では日本人を上回りました。また、面接官は①受験生のほとんどが日本に数年は住んでいる。②日本人の風習、考えを理解している。③日本人に溶け込もうとしている。④異なる価値観を持っていても謙虚さがある、と感じました。採用後、日本語研修を行っているが、言葉の壁はあるし、自己主張が女性にも見られ奇異に感じることもあります。今までは男女比は９：１であり、男性は女性の扱いに慣れていないのが、こういうとき、難点です。2008年から外国人採用が本格的にスタートし、今年の採用は120人中、40人が外国人でした。外国進出の目的で採用しているのではないが、将来、少子化で日本の労働力が不足した時に備えての採用でもあります。

私はこの講演で、外国人が誠実に勤め、風習・文化を理解していくなら、日本で働く道はローソン以外にもあるのではないかと、将来に明るさを感じました。従業員となった時の必要事項はきちんとした言語による意思疎通でしょう。私達日本語支援者はさらに学習者の日本語支援に力を入れると同時に折にふれて彼等に日本的な考え方、風習を参考にできるように教えておくことも必要と、今後の課題を教えられた講演でした。(気賀 倭文子）

風刺劇「ちがってもいいじゃん！～日本に暮らしている外国にルーツを持つ子どもたち～」を観劇しました。

作、演出、演技者が神戸大学の学生の方々で、震災をきっかけに地域と学生の交流の場として始まった「灘チャレンジ」の行事で上演された劇です。

多文化共生を考えるのにぴったりの劇で、外国（身近なベトナム、韓国、ブラジル）にルーツを持つ子どもたちが抱える問題をテーマにしたものでした。共に地域社会で生きていく未来に夢を持つ子どもたち、世の中に通用する人材になれる子どもたちを、生きづらくしている環境から守り、地域で育て、一緒に成長していけたらいいなあというメッセージが込められていました。

劇の最後で子供たちが、「不安だけど、いろんな人の支えがあって、これからもこの場所で生きていくんだ！」と叫んだ幕切れが印象的でした。

若い学生さんたちが国際的といっても、外国に関心を持つ人の多い中、足元の国際化の問題に目を向け、取材や討議を重ねながらこの劇を作りあげたことは意義あることだと思いました。

とてもわかりやすく、エネルギッシュな劇でしたのに、観客が少なかったのが少し残念でした。（谷先　晴代）

◆外国人のための緊急就職支援講座

８月２日(日）13:00～17:00、海外移住と文化の交流センターにて、兵庫県国際交流協会と共催で緊急就職支援講座を開催しました。

この講座は外国人の方たちが就職先を探すにあたって必要になること、ハローワークの場所や利用の仕方、面接時の電話のかけ方やマナー、必要な日本語の練習や履歴書の書き方などの講座を行ないました。
参加された方から、感想を書いていただきました。

８月２日の講座に参加して
現在の経済危機の中で大勢の人々が失業しやすくなってしまいまして、特に新しい仕事の就職活動が難しいです。もし今日安定した仕事があっても、明日会社をリストラになってしまって仕事を失う可能性があります。それも大きい問題ですが、外国人にとって日本語とビジネスマナーの正しさも重要な課題です。
私自身も運が悪かったら仕事を失うかもしれませんので、緊急就職支援講座に申し込みをして予め就職活動の準備しようと思っていました。でも、経済が良い時にも転職をする為に有意義だと思っています。
日本のビジネスマナーをインターネットでよく調べているんですが、意見や助言が多すぎて正しい答えを見つけられません。ですから、セミナーのチラシが面白そうでした。
ハローワークにまだ行ったことがありませんが、プレゼンテーションを聞いてみると就職活動にとても便利な所みたいです。また、求人市場の沢山の具体的な数字や事実を見て自分の将来設計を立てやすくなるでしょう。
とても興味があった部分はビジネスマナーのプレゼンテーションでした。外国人に対してこれは言語より大きい関門だと思います。厳しくてややこしい規則が沢山あって、日本人の友達からも正しいマナーの説明を受けられませんでした。
母国（セルビア）にも、西洋諸国に住んでいる他の友達の経験を聞いた内容にも、厳しい規則はなく面接官の性格によって大きく異なります。ルールとしては、面接官に対して印象を良くするということですが、他のことは結構柔軟です。もちろん良いマナーがとても大事なんですが、例えば求職者がジーンズをはいていることや履歴書が違うフォーマットなどの為に不採用になるとは限りません。面接ではスキルや知識、自分の良い性格をアピールするのが主な目的です。また、上下関係が厳しくないので、１０年か２０年の年上の上司とすぐうちとけることも珍しくないです。でも、日本では礼儀正しくってとても丁寧な人だったら多くの機会が与えることでしょう。逆であれば、ほとんどの機会がなくなってしまいます。ですからビジネスマナーの話がとても有意義でした。多少知っていましたが詳しいことは混乱していました。
沢山の新しいことも身につけることが出来、例えば正しい挨拶の順番や椅子の座り方などですが、よかったです。
最後のプレゼンテーション（履歴書の書き方と日本語で面接のやり方）も楽しみにしていました。その二つのことは応募者にとても重大なことですので、ちゃんと出来ないと就職活動の意味がありません。前は履歴書を何回も書いて「いい履歴書だね」とずっと思っていたんですが、セミナーで日本語の先生にチェックしてもらって弱点や誤りが沢山あり、今回良い助言をもらいました。模擬面接の時も大事な点を分かってきたので、履歴書と面接の誤りを教えてもらってとても嬉しかったです。今からそんな間違いをやらないように気をつけます。
ビジネスマナーがこんな細かいことが多くて、芸術のようなことですので、勉強や訓練が必要だと思います。私は前「こんな細かいことは不便、いらない」と思っていましたが、意見が変わってきました。若者が責任ある社会人になるために、いいドリルだと思います。セミナーの話を聞いて自分の以前の間違ったことを分かってきたから、もっと自信が持てるようになりました。今度仕事を探す時に絶対役に立ちます。
セミナー自体が外国人にとって本当に素晴らしかったです。主催者と関係された人々皆さんにあ

りがたい気持ちを言い表す言葉がありません。仕事の探し方よりも、皆さんから人類の掛け替えのない教訓を教えてもらって嬉しいです。
　自分の時間と力を使って、私達のために講座すべてをやってくれました。心よりどうもありがとうございました。
(Skrbic Vladimir)

■■■ＫＦＣ日本語プロジェクト■■■

◆７月研修会　「学習者から意見を聞いて、支援の方法を考える」

　７月10日の研修会は「学習者から意見を聞いて、支援の方法を考える」というテーマでした。出席者は奥さんと12名の支援者。学習者は三人、ハンさん、ニューさん、ホンさんで、偶然か皆ベトナム出身でした。
　来日の時期は半年前、二年前、八年前と差があります。それぞれが自己紹介として来日の目的と現在の状況を説明しました。三人に共通していたことは「日本語の基礎」「新日本語の基礎」をテキストとして使用し、テキストには満足していることでした。
　また、彼女達は話すこと、聞くことが上達しない。それはこれらを経験するチャンスが多くないからといいます。仕事や生活の上にはこの二つが大変必要なのに、来日前に学んだ文法的なことは余り役に立っていないようです。生きた日本語にふれたいのでテレビのニュース、テロップに流れることを参考にしているとのことです。毎日、教科書を何度も開き、日本語学習にかなりの時間を当てていることに私達は感心しました。
　後半は三つのグループに分かれ、雑談的な話し合いをしましたが、どういう方法で学習したいか、具体的な提案はありませんでした。
　私達には熱心に勉強しようとしている彼女達の気迫は十分に伝わり、教える側も負けないように方法を―彼女達の立場に立って―考えてあげなくてはならないと刺激を受けた研修会でした。
（気賀 倭文子）

◆お国紹介

　　私は、2008年9月20日に日本へ来ました。その時私は日本語が全然わかりませんでした。4ヶ月ぐらい日本語を勉強しています。
　私はタンザニアのザンジバから来ました。海が周りにあります。
　タンザニアでは雪がありません。私は日本へ来るまで雪を見たことがありませんでした。
　タンザニアは食べ物が何でもおいしいです。たとえばピラウとビリアニ（アフリカ・アラブ・インド風炊き込みご飯）は、とても有名です。皆さん、タンザニアへ行ったら是非食べてください。タンザニアは日本から遠いです。海は近いです。だから都会にはシーフードがたくさんあります。たとえばタコ、魚、カニ、エビが有名なシーフードです。
　アフリカで一番高い山がタンザニアにあります。キリマンジャロです。キリマンジャロは5785Mです。 (Ali Iddi Ali)

■■■ＫＦＣ外国にルーツを持つ子どもの学習支援■■■

◆kizzaniaへ行こう！

　　ＦＣでは子どもたちにいろんな仕事を体験してもらいたいと考え、今年３月に西宮市にオープンしたテーマパーク『キッザニア甲子園』に行きました。『キッザニア甲子園』は子どもたちが好きな仕事にチャレンジし、楽しみながら社会のしくみを学ぶことができる場所です。本物そっくりの仕事体験ができ、仕事をすればキッザニアだけで使えるお金（キッゾ）でお給料がもらえ、その

お金でサービスを受け、買いものをすることができます。
　当日は４人の子どもたちとスタッフでキッザニア甲子園へ行きました。将来デザイナーになりたいと思っている子どもは、自分で実際にマネキンに服を着せてコーディネイトを体験したり、ネイルアーティストの体験をしたりしました。他の子どもたちもデザイン教室に行って自分だけのシールを作ったり、キッザニアにあるドライビングスクールで交通ルールを学び、免許（！）を取得したりもしました。少しだけではありますがいろんな仕事や体験をすることができ、子どもたちにとっても楽しい思い出になったようです。　　(矢根 寛子)

以下は参加した子どもたちの感想文です。

「キッザニアに行って」
　キッザニア甲子園は、デザイン教室でシールを作りおもしろかったです。ペットショップで迷子札づくり体験をしました。私は犬のLuckyを作りました。とてもかわいくできました。
　次に運転免試験場で信号の勉強をしました。とても頑張って勉強しました。そして運転免許証をもらうことができました。銀行でキャッシュカードをもらいました。キッザニアはすごくおもしろかったです。
　　（ベトナムにルーツを持つ３年生）

「初めて行ったキッザニア」
　初めてキッザニアに行って、入った時どこがどこだか分りませんでした。キッザニアに行って大人がほとんど入れませんでした。キッザニアでは、キャラクターがいます。まず、一人はウルバノというキャラクターです。もう一人はバッチェでもう一人は分かりません。
　キッザニアで仕事をいっぱいしました。いろんな事ができました。デザイン教室でシールを作りました。銀行でお金を貯金して口座を作りました。ペットショップでキーホルダーを作りました。かわいかったです。また行きたいです。
　　(ベトナムにルーツを持つ４年生)

「昨日キッザニアに行った事」
　昨日キッザニアに行きました。まず、最初にデザイン教室に行きました。自分だけのシールを作りました。楽しかったです。
　次に銀行に行きました。お金を振り込んで、財布もプレゼントでもらいました。
　その次にビルクライミング体験に行きました。最初は簡単だと思っていたけどやってみると途中までできたが真ん中ら辺の所で止まってしまいました。後から気を取り直して最後に赤いボタンと押して下に降りてきました。
　その次ペットショップで犬の迷子ふだを作りました。そしてウルバノと一緒に写真を撮りました。その次に銀行でキャッシュカードを作ってもらいました。その次に運転免許証を作りに行きました。テストをして100点をとった人しか運転免許証がもらえないけど、みんな合格しました。また行きたいです。
（ベトナムにルーツを持つ３年生）

◆フルーツフラワーパークで梨狩り体験！
8月30日（日）に支援者と数人の子どもたちでフルーツフラワーパークに行きました。
集合の朝、予定時間より早く子どもたちが集まり、みんなワクワクしながら出発するのを心待ちにしていました。そして現地まで着くと周りの遊具や店に興味深くなり、あちこちと走りまわって嬉

しそうな表情でした。しばらく遊んだ後、近くの大きな公園内にて昼食をとりました。それぞれが持参したお弁当を食べ、美味しく楽しいランチタイムでした。
昼食後、公園の遊具を楽しんだり、バトミントンをしたり、散歩をしたり、近くのステージで行われているショーを見たりとそれぞれ過ごしていました。13時からは予定していた梨狩りに向かいました。週末の為か大勢の人が集まっており、にぎやかな雰囲気の中、子どもたちも自分の好きな梨を探しに盛り上がっていて楽しい時間を過ごしました。
今回行ったフルーツフラワーパークでは普段出会うことの少ない緑や景色に感動し、子どもたちにとってものんびり楽しく過ごせた一日になったと思います。（トラン ティ ティエン アン）

◆「先輩たちに聞いてみよう！～高校ってどんなところ？受験勉強ってどうすればいいの？」

　夏休みを目前に控えた7月16日（木）、「先輩たちに聞いてみよう！～高校ってどんなところ？受験勉強ってどうすればいいの？」と題して、ＫＦＣで学習をしていた現役高校生や定住外国人子ども奨学金事業の奨学生に来てもらい、これから受験に立ち向かっていかなければならない中学生や小学校高学年の学習者を集めて、体験談を話してもらったり、アドバイスをしてもらう会を開きました。実際に足を運んでくれたのは、現役高校生４名、学習者（小中学生合わせて）6名、支援者およびスタッフが７名の計17名でした。
　一言ずつ自己紹介から始まり、緊張した空気が流れていましたが、ＫＦＣ卒業生の女子高校生と奨学生の男子高校生が思いのほか最初から打ち解けた空気で話をしてくれたので、話が進むにつれて空気は和んでいきました。
　高校生に話してもらったのは、大きくは高校生活のことや受験のことでした。最初に高校生活について話をしてもらったのですが、彼ら曰く、中学と高校の大きな違いは「自由であること」とのことでした。「良くも悪くも自由」と、うまいことを言うなと思いました。勉強だけを取り上げてみても、「やるのもやらないのも本人の自由。ただし、やらなきゃ落第する。」との話に、大人たちは納得でした。けれど、まだ小中学生の学習者たちには厳しい世界に思えたようで、「落第する人ってほんまにいるの？」など不安そうな質問も飛び出しました。それから「中学の勉強は基本やから、ちゃんとやってる方がいい。」との話には、「きちんとわかりやすく教えてあげないと」とこちらの気が引き締まる思いでした。「高校の勉強って、中学の勉強にほんのちょっと足しただけ。だから、中学の時に真面目に勉強しておけばよかったと思う。」と、実体験を基に話をしてくれました。そこから、今度は受験に話題を変更しました。誰もが気になる「どんな勉強をすればいいのか？」「１日何時間ぐらい勉強すればいいのか？」という話には、「何時間したかが大事なんじゃない。何時間もやったとしても、ＴＶ観ながらダラダラやったんなら全く意味がない。それやったら、たった10分でも集中してやった方がいい。」とこちらが予想にもしなかったしっかりとした話をしてくれました。
約１時間半の短い時間でしが、こちらの予想以上に高校生たちがいろんな話をしてくれました。また、学習者たちもそれぞれに気になることを質問できたようでした。夏休み前ということもあり、中学3年生でもまだ具体的に“受験”が身近に感じられない段階でしたが、学習者それぞれに何かを感じて帰ってもらえたのではないかと思います。また、高校生になってまだ３ヶ月の卒業生たちが、少し見ない間にとても大人になったようで、一緒に学習をしていた方としては、とても嬉しい時間を過ごすことが出来ました。こうやって、卒業していった子どもたちが年下の子どもたちに何かを伝えていける場を設けられるように、今後もこういった会は続けていこうと改めて感じました。
（濱野 徳子）

■■■ ハナの会■■■

◆みんなハッピー・ハナの会　夏まつり

　去る7月30日、8月3日、4日に恒例の「ハナの会・夏まつり」が行われました。
幾つになられてもおまつりは楽しいもの。特にハナの会の夏まつりは食べて歌って踊っての利用者さんもデイのスタッフもみんなが大いに楽しむ手作りまつり。みんなこのまつりを楽しみにしています。
今年もまず、ヘルシーでおいしいバイキング料理でスタートです。調理スタッフの朴さん特製ほんのり甘いシッケで乾杯。プレートの上には、種類も豊富な料理が盛り沢山に並んでいます。お餅もあれば、お菓子もあります。
さて、昼食後、金理事長の『暑さに負けず、おまつりで元気をもらって下さい』との挨拶でイベントが始まりました。
続いてスタッフ・ベトナム人のニューさんの歌。歌の意味はベトナム語なのでわかりませんが、ノン（編み笠）ときれいなアオザイ姿のニューさんの歌はしっとりとした魅力的な歌でした。スタッフがバックダンサーとなって歌を盛り上げてくれました。
続いてカラオケで登場は、事務所の長沼事務局員の『ひとり酒』と金理事長で『酒と涙と男と女』熱唱。
そのあとなにやら得たいの知れない6人の闖入者というかなんと言うか･･･。歌を歌い。太鼓、鐘、なべなどを叩きながら入っていました。ボロボロの服、ザンバラの髪、異様な風体ですが、妙にリズミカルで元気がいい。今日のメインイベントの韓国『カクソリ』というオコモさんの一行でした。そのしぐさといい歌といい堂に入っているので、オモニたちもあっけにとられるやら、感心するやら。そして見る方もだんだんその怪しげな一行のペースに巻き込まれてしまいました。スタッフの迫真のパフォーマンス。
さぁ、最後は韓国・朝鮮メドレーのオンパレード。お得意の歌と踊り。みんな立ち上がり手をつないで軽いステップ踊り。盛り上がりは最高潮です。
こうしてスタッフの工夫とご利用者のみなさんのご協力で、3日間の夏まつりは大成功で終わることができました。皆さんほんとうにお疲れ様でした。（長沼幸正）

■■■ 今後の予定■■■

■研修会

10月17日（土）13:30～16:00
　　「日本語ボランティアを経験して」
　　※ボランティア養成講座を兼ねます
於　アスタくにづか４番館

11月14日（土）13:30～15:00
　　「識字教室の活動から見えるもの」（予定）
桂光子（識字教室ひまわりの会）
於　多文化子ども共育センター(moi)

■日本語能力検定試験２級合格目標クラス

　9月5日（土）～11月28日(土)
　　14:30～17:00
於　多文化子ども共育センター(moi)

■学習に来ている子どもの保護者との個別面談

10月25日（日）